

■ 第1回国立駅周辺まちづくり会議記録(要旨)

会議名		第1回国立駅周辺まちづくり会議
日時		平成22年8月26日(木) 19:00~21:05
場所		国立市役所3階 第3・4会議室
出席者 (敬称略)	委員	<p>公募市民 新井委員、笠井委員、関委員、藤本委員</p> <p>国立駅周辺関係団体 甲斐委員、窪田委員、原田委員、(欠席:五十嵐委員)</p> <p>学識経験者 篠原委員、中井委員、(欠席:羽藤委員)</p>
	事務局	<p>国立市長 関口博、小澤都市振興部長、 国立駅周辺まちづくり推進室職員 4名、 (財)都市づくりパブリックデザインセンター 3名 (株)設計領域 1名</p>
	傍聴者	30名
	議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 国立市長あいさつ 3. 委員の紹介と会長の選出 4. 国立駅周辺整備の内容と国立駅周辺まちづくり会議の目的・役割及び検討部会の設置(案) 5. 国立市の概要 6. 意見交換 7. その他 <ul style="list-style-type: none"> ・第2回国立駅周辺まちづくり会議の開催日程 ・シンポジウムの開催日程(11月28日)ほか
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・資料1-1:国立駅周辺まちづくり会議 委員名簿 ・資料1-2:国立駅周辺まちづくり会議 設置要綱 ・資料2:国立駅周辺まちづくり基本計画(抜粋) ・資料3-1:まちづくりの推進体制の確立と国立駅周辺まちづくり会議のスケジュール(案) ・資料3-2:国立駅周辺まちづくり会議 検討部会の設置(案) ・資料4:国立市の概要 ・参考資料1:現況図面(交通体系、施設立地) ・参考資料2:歴史的駅舎建築の保存および活用事例のまとめ ・参考資料3:駅に併設された公共施設の事例 ・参考資料4:「まち育て」の取り組み事例 (駅周辺におけるまちづくりの取り組み事例から訂正) ・参考資料5:国立駅周辺まちづくりに関するアンケート (居場所に関するアンケート)結果 ・「ひとを大切にすまちづくりのために」パンフレット ・国立駅周辺まちづくり基本計画 ・国立市都市計画図 	

【会議結果】

1. 開会（国立市長から出席委員に対し、依頼状を交付された。）
2. 国立市長挨拶
3. 委員の紹介と会長の選出
 - ・国立駅周辺まちづくり会議設置要綱第5条第2項に基づき、委員の推薦による会長の選出を行い、会長に篠原委員が選出された。
4. 国立駅周辺整備の内容と国立駅周辺まちづくり会議の目的・役割及び検討部会の設置（案）
 - (1) 国立駅周辺まちづくり会議の進め方等
 - ・会議の結果については、議事要旨を市のHP上に掲載させて頂くことを委員から了解を得た。
 - ・東京都管理道路もあることから、議論を行うために、東京都の職員にオブザーバーとして参加して頂くことについて委員の了解を得た。
 - ・国立市は一橋大学の存在が大きいため、本会議に一橋大学の先生に参加して頂くことを委員長から要請された。また、JR 東日本についても整備計画に係る議論が必要であるため、本会議に参加して頂くことを委員長から要請された。
 - (2) 国立駅周辺まちづくりの事業スケジュール
 - ・事務局から、平成32年度末までに、都市計画道路3・4・10号線を北工区を除く国立駅周辺まちづくり事業全体の整備が完了する予定であることを委員に説明した。具体的には平成25年度に鉄道高架化の事業が完了し、平成26年度以降から高架下の整備や駅前広場、周辺道路の整備に着手する予定である。
 - (3) 検討部会の進め方等
 - ・検討部会は、国立駅周辺まちづくり会議で検討できない細かい内容について検討する。検討部会のメンバーは固定せず、必要に応じ、拡充していくことを委員に説明し、資料3-2「国立駅周辺まちづくり会議 検討部会の設置（案）」について、委員の了解を得た。
 - ・会長から「交通」の検討部会長に、羽藤委員が推薦され、「景観」の検討部会長に中井委員が推薦され、委員の了解を得た。
5. 国立市の概要
6. 意見交換（各委員から以下の意見が出された。）
 - ・駅と駅前広場は鉄道事業者、バス事業者、タクシー事業者など利害関係を持っている人が多くいて、まとめるのが大変です。国立の場合はJR東日本が駅舎を既に整備しているので、その問題はありませんが、旧駅舎の活用の話がありますので、JRとの議論も将来的には必要になるだろうと思います。鉄道関係と上手くいかないと話が進みません。皆が全て満足するという形で話しがまとまるのは難しい。
 - ・今回の設計に対して、国立駅周辺だけに捉われず、市全域を捉えた全体構想から国立駅前周辺の位置づけ、方向性について議論すべきであると思う。
 - ・新たな街を整備するのではなく、既存ストックを活用した修復型のまちづくりを行うことで効率的なまちづくりが可能になると思う。市民それぞれがいろいろな考え方を持っているので、モニタリングや実地調査を良く行ってほしい。
 - ・南部地域の谷保や矢川には魅力ある観光資源が多くあるため、今後、駅周辺をどのように位置付けるかを考えると、観光という視点もあると思う。駅前広場を公園にするという計画があるが、色々な面から調整するのが難しいと思う。
 - ・国立駅北口を出てすぐに国分寺市が広がっている。駅前広場の整備には北口広場も入っているし、総研線跡地も入っている。国立駅の南口から北口への回遊性を踏まえると隣接する国分寺市との連携が必要となるため、本会議にオブザーバーとして参加して頂くことが望ましい。
 - ・本会議の結果を国分寺市の市民に情報提供することで、国立市民と国分寺市民の交流が生まれ、より良い計画づくりが実施できると思う。

- ・ 駅周辺という大きな話の中で、検討部会で検証、実験、提案したものが、必ずしも駅前広場で受けられるものではないと思うので、受けられるもの、受けられないものをある程度はっきりした方がよいのではないかと思います。谷保、矢川、などの南部は魅力的な地域だと思うが、どうやってデザインに落とし込んでいくのかという課題がある。復原した駅舎で何かをやるとか、ハードではなく、ソフトで表現できることもあると思う。駅周辺だけでなく、市域全体を考えて、駅周辺でデザインしていくということもあるので、検討部会で検討して頂ければと思う。
- ・ 駅前広場にロータリーが形態として出てきていない。国立駅前に広場が作られたときにロータリーとしてあった訳です。そこを町内に車が1台しかなかった時代に、町民が集う広場として使っていたというのが事実だと思うのです。そこを把握して、あの広場に対する愛着をどう考えていくのか。人を大切にという考えは、価値あるハードを残すという思想も含まれていると思う。古いものを大切に作る、保存するという精神を持つべき。
- ・ 古いものとしてのロータリーも大事だが、現在の駅前広場は渋滞していて、決して良いものとは思えない。円形公園にも近づけず、良いものが埋もれている。また、今後、駅周辺の道路が整備され、駅前広場の交通量が減ると聞いている。車、自転車、歩行者が錯綜しない安全な環境を検討していきたいと考えている。国立市民でも南部地域の良さをわかっていない人も多い、北口から南部の取り込みを考えるだけでなく、南部からの意見も出して頂き、国立駅周辺が、南北の市民の交流の場となることが望ましいと思う。
- ・ 駅前広場はかつて水禽舎があったように、モーターレーゼーションの発達以前には広場として整備されている。これは、文教地区協会が発行している絵葉書からもその様子を伺うことができる。人中心の駅であれば、昔の状態に近いもので整備することが考えられる。大学町を整備するに当たり、駅舎と谷保天満宮を結んだのが、現在の大学通りであり、両者は対になることを意識して整備されていたことから、今後の計画づくりでは、もともとの設計思想に立ち返ることも重要であると思う。
- ・ 検討期間が長期的なものとなるため、机上の議論だけでは飽きてくるのではないかと。小さなことでも成果を積んでいくことや、整備した後の利用をイメージさせる楽しいと思える成果を出していくことが重要である。私が関与した某駅前広場では、市民のための空間を整備しようとして、一時的に交通を止めて、駅前広場を市民広場として使う試みを始めている。社会実験で始まったが、今では、市民がそのために組織をつくり、定期的に広場利用を始めている。

7. その他

- ・ 11月28日（日）13：30から、国立駅周辺まちづくりシンポジウムを開催する予定である。
- ・ 第2回国立駅周辺まちづくり会議は、11月中旬の平日、午後から開催する予定である。